

## 第 1 学年 1 組 図画工作科学習指導案

1 題材名 かみがへんしん！おってたてたらなにになる？

2 題材構想

＜題材の目標＞

- 紙を折って立てた形から思い付いたものをつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くことができる。 [共通事項] (1) ア
- はさみ、クレヨン・パス、紙などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫することができる。 A表現 (2) イ【知識及び技能】
- ◎ 折って立たせた紙から感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えることができる。 A表現 (1) イ
- ◎ 折って立たせて並べた自分たちの作品の創造的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。 B鑑賞 (1) 【思考力、判断力、表現力等】
- 楽しく紙を折って立てた形から思い付いたものをつくる学習活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しい生活を創造しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

＜学年団で目指す子供の姿＞

やる事が分かって、自信をもって取り組める子。

＜キャリア教育で身に付けたい力＞

◎ 学んだことやアドバイスをもとに、課題に取り組む。【がんばる力】

＜児童の実態＞

感受性が豊かで、図画工作科では、自分の作品のよさや、友達の作品のよさに気付いたり、発言や思いに共感したりすることができる児童が多い。鑑賞の際には、「すごい！」「かわいい！」など友達の作品を肯定的に捉える児童が多いが、語彙が乏しく、表現の具体性には欠ける。「ひもひもねんど」の学習では、粘土を紐状にしてから発想を広げ、自分の作りたいイメージをもとに、作品を意欲的につくることができた。はさみの使い方については、実践の場が少なく、線に沿って切ったり、曲線を切ったりすることが苦手な児童が多い。

学年団で目指す子供の姿については、学習計画を示すことで見通しをもったり、自信をもって前向きに取り組んだりすることができるようになってきた。

キャリア教育で身に付けたい「がんばる力」については、間違えてしまったり分からなかったりすると、不安になったりやる気がなくなったりしてしまう児童もいる。

＜題材について＞

本題材は、紙を折って立てた形から想像を膨らませ、紙の折り方、切り方、立たせ方を工夫しながら表したいものをつくる工作の題材である。平面の紙を折ることで立体的に表すことができる面白さを感じることができ、その新しい表現の発見が製作意欲につながっていくと考える。また、「ひもひもねんど」での見立てる学習を生かし、本題材では、折って立てたものを見立てる楽しさを味わわせたい。

表現の段階では、友達との関わりの中で互いの作品を見合う時間を設定する。友達の表現のよさを自分の表現に取り入れたり、新しい発想を広げたりすることで、つくり出す喜びを感じることができると思う。

＜目標実現にせまる題材計画を立てるために＞

本題材では、児童が様々な折り方や切り方を試すことができるようにするために、十分な量の紙を用意したり、発想を広げることができるようにするために、豊富な色や形の紙を用意したりするなど環境を整えたい。

本時の紙を折って立たせた形が何に見えるかを見立てる活動では、児童の発言を肯定的に受け止め、思考の広がりを止めることのないようにしたい。また、同じ作品でも立たせる方向や見る人によって見え方が変わるということの面白さにも気付かせたい。そして、次時からの作品づくりでは、さらに自分の見方や感じ方を広げながら意欲的に活動に取り組めるようにしていく。

題材の終末では、より具体的な表現を用いて鑑賞をすることができるようにするために、まんまるタウンというテーマを設定して作品づくりを行う。イメージを共通認識することができ、視点が同じだからこそ新しい発見が生まれると考える。